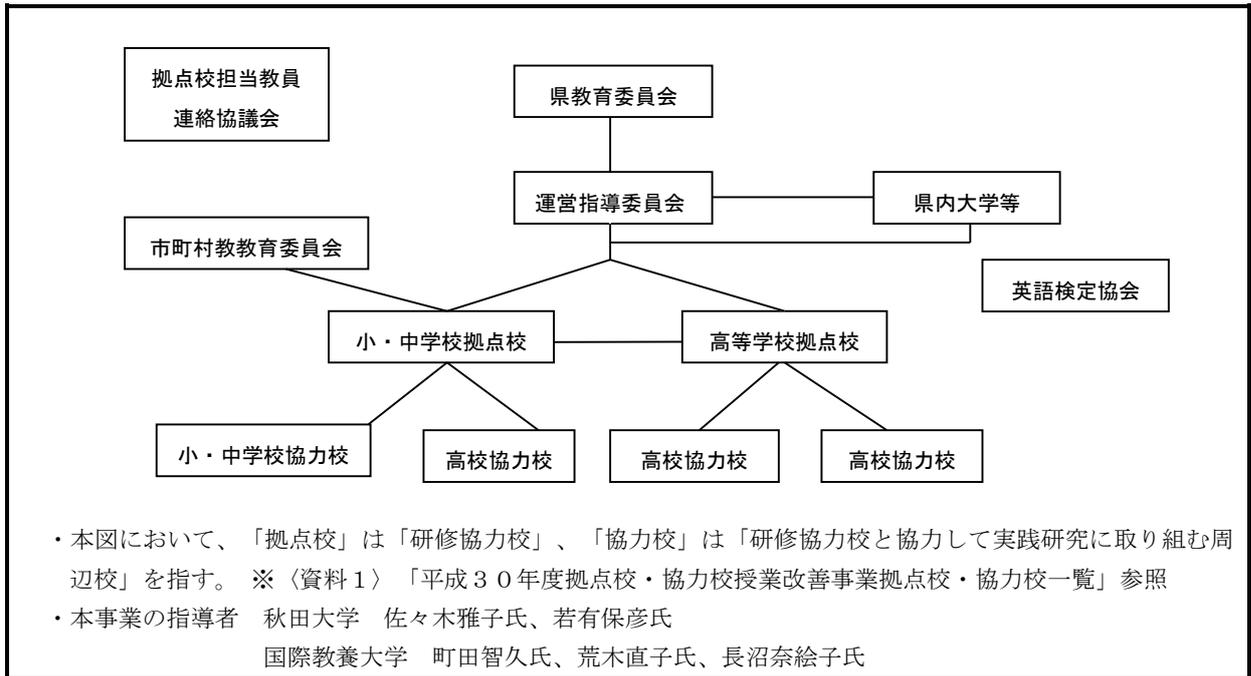


(様式3-2)

秋田県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

本県では、平成25年度～平成29年度に実施した「あきた発！英語コミュニケーション能力育成事業」を発展させ、平成30年度には「AKITA英語コミュニケーション能力強化事業アクションプラン」（以下アクションプラン）を策定する。また、今後の英語教育の充実を見据え、児童生徒の英語コミュニケーション能力及び教員の指導力の向上に取り組む。

本プラン及び「平成29年度英語教育実施状況調査」の結果を踏まえ、PDCAサイクルを機能させながら次のような目標管理の下で本事業を推進する。

P：目標管理設定

D：各種研修会、公開研究会の実施、外部機関による指導及びそれらを踏まえた授業改善

C：県学習状況調査（高校：10月、中学校：11月）英語教育実施状況調査

A：研究校の成果の普及と各校による授業改善の実施

A：現在の本県の状況（昨年度比） **B**：平成30年度の目標 **C**：具体的な手立て

1 求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合

A：中学校…27.5%（-1.3）、高等学校…57.8%（+3.1）

・求められる英語力を有する教員の割合は、中学校ではやや減少、高校においては順調に推移しているが、県の目標値には届いていない状況である。原因として、教員の受験機会の不足（地域的な問題、教員の高齢化等による）などが考えられる。

B：55.0%（中学校）、76.0%（高等学校）

C：①英語担当教員や管理職を対象とした研修等の機会を活用し、外部検定試験による資格取得の重要性について意識啓発を図る。

②様々な機会を活用し、県の現状や平成30年度の数値目標を具体的に提示し、県全体で取り組む気運を醸成する。

③中学校については、求められる英語力を有する英語教員の割合を市町村ごとに分析し、

教育事務所や市町村教育委員会と協力して英語教員に働きかける。

- ④英語担当教員に対し、外部資格試験に関する具体的な情報を提供する。
- ⑤本事業の予算から外部検定試験の検定料を補助することで、教員の経済的負担の軽減を図り、受験者の増加を図る。
- ⑥求められる英語力を有する教師の割合(%)、英語担当教員の英語使用状況(%)、生徒の英語による言語活動時間の割合(%)、以上三つの指標の変化を教師の英語指導力の変容と捉え、PDCAサイクルを機能させながら、組織的に改善を図る。

2 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合(中学校第3学年、高等学校第3学年)

(1) 中学校

A : 49.1% (+12.0)

- ・求められる英語力を有する生徒の割合は昨年度より12ポイント上昇し、一昨年度の値に近づき、県の目標値にあとわずかとなった。本県が独自に実施している事業「外部検定試験(英検)の受験」により、各学校が本事業をより効果的に活用して生徒の英語力の向上に向けて努力してきた。昨年度は、合否判定基準の変更等によると思われる大幅な低下がみられたが、今年度は持ち直した形となった。平成30年度は新規事業の開始にともない英検受験への補助は終了するが、生徒自身の英語学習に対するモチベーションの向上を図るため外部検定試験受験に繋がる施策を行う予定である。国が第2期教育振興基本計画において指標として示している数値(50%)及び本県が設定した目標値(51%)に近付けたい。

B : 47.0%

- C : ①来年度から県の新規事業を実施し、各学校においてより効果的に活用してもらうことで、英検に対する生徒の意識・意欲を更に高めながら、取得率の向上を図る。
- ②様々な機会を活用し、平成30年度以降の数値目標を具体的に提示・共有しながら、県全体で組織的に取り組む。
- ③受験結果から生徒の英語力を分析し、課題については県で実施している学習状況調査や高校入試にも反映させることにより意識化を図るなど、県全体としてのPDCAサイクルを確立させる。
- ④既に求められる英語力を有している生徒については、更なる上位級の受験を奨励するなど、英語学習への意欲を高めながら自律的学習者の育成を図る。

(2) 高等学校

A : 41.7% (+3.8)

- ・求められる英語力を有する生徒の割合は、今年度の県の目標値には届いていないが、初めて40%を上回り、平成25年度から順調に増加している。平成28年度に引き続き今年度も「外部検定試験(英検)の受験」を一部の高等学校で実施し、生徒の英語学習に対する意欲を高めた。中学校3年生に対して実施している英検受験への補助が、高校においてもより高い級に挑戦する動機付けとなっている。今後、国及び本県が設定している目標値の達成に向けて取組を続けたい。

B : 47.0%

- C : ①来年度も「外部検定試験(英検)の受験」を一部の高等学校で実施するとともに、県内全ての高校生に対し、自身の英語力を客観的に把握するための働きかけを行い、英語学習に向けて主体的に取り組む姿勢を育成する。また、英検受験に対する生徒の意識・意欲を高めながら、取得率の向上を図る。
- ②様々な機会を活用し、平成30年度以降の数値目標を具体的に提示・共有しながら、県全体で取り組む気運を醸成する。
- ③授業において生徒の英語による言語活動の充実が重要であることについて、英語担当教員の理解を一層深め、指導力向上及び授業改善を更に進める必要がある。
- ④受験結果の分析や経年比較により、生徒が自身の英語力の伸長を実感し、意欲向上につなげる機会を与える。

3 「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

(1) 中学校

A：設定…100%（±0）、公表…30.7%（+5.3）、
達成状況の把握…67.5%（+0.8）

・昨年度に引き続き全ての中学校で作成することができた。「達成状況の把握」については毎年増加しており、生徒の英語力の把握において活用が進んでいる。今後も継続して本事業における研究や各種研修等で、学習到達目標リストの積極的かつ有効な活用について具体的に提示していく。

B：設定…100%、公表…100%、達成状況の把握…78.0%

C：①設定については全ての学校が達成できているので、今後は、運用の在り方について、教員研修等を通して理解を深める。

②「CAN-DOリスト形式の学習到達目標」の公表、達成状況の把握については、研修協力校の研究課題として重点的に取り組み、その成果を発信することにより、県全体の意識を高めていく。また、様々な機会を捉え、優れた取組をしている学校の実践を紹介するなどして、各学校が具体的なイメージをもって取り組んでいくことができるよう支援していく。

③市町村教育委員会等の理解を得ながら、県としてHP等にアップするなど公表をバックアップしていく。

(2) 高等学校

A：設定…100%（±0）、公表…100%（+43.2）、達成状況の把握…55.4%
（+9.5）

・昨年度に引き続き全ての高等学校で作成することができた。今年度は更に内容を見直すとともに、県教育委員会及び県総合教育センターのホームページへの掲載を行い「公表」についても達成率100%となった。各校ホームページでの公開も進んでいる。「達成状況の把握」をしている学校も着実に増えており、今後も効果的な活用事例の紹介等の働きかけを通じて、達成率を高めていきたい。

B：設定…100%、公表…100%、達成状況の把握…60.0%

C：①各校の現状を踏まえた実用性のあるものになるよう、作成したリストの効果的な運用方法に関する取組を行うとともに、適宜見直しや改善を図るよう指導を継続する。

②研修協力校等の取組事例について協議会等を通して幅広く発信し、県内各校において他校の実践を参考にしながら、自校のリストを更に改善していく機会を与える。

4 授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

A：中学校…93.0%（-1.1）、高等学校…45.5%（-4.0）

・中学校においては、平成29年度の目標を達成することができている。今後は、より質の高い言語活動が展開されるよう努める。

・高等学校においては、科目による言語活動時間の偏りは少なくなっているものの、学校間での取組に差が出てきており、結果として全体的な数値の減少につながっている。特に進学校において言語活動時間の占める割合が低くなっている傾向が見られ、英語担当教員の理解を深めるとともに授業改善を進める必要がある。

B：中学校…95.0%、高等学校…56.0%

C：①学校訪問時に、生徒の英語による言語活動がどの程度行われているかを観察し、必要な指導助言をする。その際、英語担当教員のみならず、管理職に対しても県として目指している指標について説明するなどし、学校総がかりで授業改善に取り組むことができるよう助言をする。

②教員研修の充実（英語教育推進リーダーによる伝達研修等）により、学習指導要領の趣旨の理解を深めるとともに、指導力の向上に努める。

③生徒の英語による言語活動時間の確保の重要性とそのための方策について、研修協力校における公開授業や協議等を通して理解を深める。

④県が作成し、英語担当教員等に配付している「あきたの英語 指導事例集(H29)」及び「言語活動指導事例集(H30)」を学校訪問指導等に活用し、授業における生徒の言語活動の量と質を高めていく。

5 「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

(1) 中学校

A：スピーキングテスト…3. 1回、ライティングテスト…2. 4回

B：スピーキングテスト…6. 0回、ライティングテスト…6. 0回

C：①教員研修の充実（英語教育推進リーダーによる伝達研修等）により、スピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの重要性について、教員の更なる意識の向上を図る。

②県版スピーキングテストの周知に努め、各学校における活用度を高める。

③各学校が県版を参考にして自校の実態に合わせたスピーキングテストを実施するよう働きかけていく。

④ライティングテストについては、ALTを活用した研修協力校の取組を他の学校に広げていくとともに、各研究協議会等でも話題にし、効果的な実施方法について意識を高めていく。

(2) 高等学校

A：スピーキングテスト

コミュニケーション英語Ⅰ…1. 8回、コミュニケーション英語Ⅱ…2. 1回

コミュニケーション英語Ⅲ…1. 0回、英語表現Ⅰ…1. 2回、英語表現Ⅱ…1. 3回
ライティングテスト

コミュニケーション英語Ⅰ…0. 6回、コミュニケーション英語Ⅱ…0. 9回

コミュニケーション英語Ⅲ…0. 5回、英語表現Ⅰ…1. 1回、英語表現Ⅱ…2. 2回

B：スピーキングテスト

コミュニケーション英語Ⅰ…2回、コミュニケーション英語Ⅱ…2回

コミュニケーション英語Ⅲ…1回、英語表現Ⅰ…1回、英語表現Ⅱ…1回

ライティングテスト

コミュニケーション英語Ⅰ…1回、コミュニケーション英語Ⅱ…1回

コミュニケーション英語Ⅲ…1回、英語表現Ⅰ…2回、英語表現Ⅱ…2回

C：①学校訪問指導（英語担当教員指導力向上研修のフォローアップを含む）や研修会、協議会等において、「話すこと」「書くこと」の指導と評価について研修する機会を作り、教員の意識の向上を図る。

②各校の「CAN-DOリスト形式の学習到達目標」を踏まえ、日常的な授業で生徒のパフォーマンスを評価する方法について研究及び実践を進めるよう働きかける。

③ALTとのティームティーチングの在り方を工夫し、生徒のパフォーマンス評価を効果的・効率的に行う方法について意識を高めていく。

6 授業における、英語担当教員の英語使用状況

(1) 中学校（「半分以上を英語で実施」の割合）

A：93. 8%（－1. 7）

・年度により若干数値の上下はあるが、平成27年度以降、全ての学年で90%程度以上の高い割合を継続している。

B：100%

C：①教員研修の充実（英語教育推進リーダーによる伝達研修等）により、「英語で行う英語の授業」について意識の向上を図るとともに、具体的な指導方法を習得させる。

②教員が自信をもって英語で授業を実施することができるよう、教員の外部検定試験の

受験奨励等を通じて、教員の英語力向上に努める。

③研修協力校の公開授業及び研究協議会等を通じて、英語の授業を英語で行うための指導法について理解を深めるとともに、研修協力校の取組の成果を普及させる。

(2) 高等学校

A : 45.3% (-2.0)

・授業における英語の使用について英語担当教員間で意識の差が見られる。「授業は英語で行う」という意識を各校の英語科スタッフ全員で共有し、実践させるためのはたらきかけが一層必要である。

B : 100%

C : ①英語教育推進リーダーによる伝達研修（学校訪問によるフォローアップを含む）等の教員研修を確実に実施し、生徒の英語による言語活動を中心とした授業への意識向上を図るとともに、具体的な指導につなげるための研修を行う。

②平成29年度英語指導力向上研修参加者（68名）を対象とした学校訪問指導等を通じて、対象教員個人だけでなく英語科としての取組を充実させるよう指導する。

③各校におけるALTの授業での活用を一層充実させるとともに、学校訪問や各種研修会での研究授業をALTとのティームティーチングで行うなど、英語担当教員が授業を英語で進める機会を増やす。

7 域内の全小学校における相応の英語力を有する教員の全教員に占める割合

平成29年度英語教育実施状況調査では、英検準1級程度以上を取得している教員の割合は0.4%（去年は0.2%）、英語免許状所有者の割合は3.3%（去年は2.9%）と、昨年度と比較して割合が高くなっている。「小学校外国語活動教員研修」及び「外国語活動・英語担当教員指導力向上研修会」により、全小学校に中核教員を配置できるよう計画的に研修を行い、外国語活動担当教員の英語力及び指導力の向上を図ってきた。

8 域内の全ての学校における研修実施回数、研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合

A : 小学校12回（443名〈15.4%〉）、中学校9回（311名〈108.4%〉）、高等学校6回（305名〈132.6%〉）

B : 小学校11回（400名〈13.2%〉）、中学校10回（287名〈100%〉）、高等学校6回（230名〈100%〉）

C : 全種校種における教員研修の充実を図り、平成30年度までに、全ての中・高等学校英語担当教員及び小学校外国語活動の中核となる教員が英語教育推進リーダーによる研修を受講できるよう、研修計画に則り確実に研修を実施する。また、小学校の中核教員を講師とする校内研修を4年間で全ての小学校教員が受講できるよう、環境を整えるとともに、中核教員の有効な活用について各市町村教育委員会及び管理職に働きかける。

(3) 研修の体系と内容の具体

→<資料3>「英語指導力向上に係る研修計画（H30）」参照

○研修を進めるに当たっての配慮事項

(1) 国際教養大学、秋田大学等県内大学との連携を深め、大学の専門性を生かしながら諸研修の充実を図る。研修に当たっては、講師に対して趣旨を十分に説明し、理解を得た上で研修を実施できるよう十分に配慮する。

なお、県外の研修講師の選定・依頼に関しては、外部専門機関との連携を踏まえ、支援を得ながら進める。

(2) 英語教育推進リーダーによる研修実習が効果的に実施されるよう、推進リーダーと連絡を密にしながら準備を進める。なお、研修の実施に当たり、本研修の趣旨が受講者に十分に伝わるよう、県教育委員会として様々な方面から支援する。

なお、小学校教員に関しては、受講後の研修をどのように学校で実施するかについて、趣旨理解の徹底を図り、確実に研修内容を伝達できるようにする。

- (3) (2)以外に、中学校、高等学校の英語教員を対象として「中・高英語教育研究協議会」を実施し、各校における授業改善を進める。

なお、これらの研修を中・高合同で実施することにより、中・高連携を一層推進する。

- (4) 小学校外国語については、これまでの国際教養大学との連携の実績を生かしながら、新学習指導要領の内容を踏まえた研修を実施し、全面実施に円滑に移行できるよう配慮する。

- (5) 各研修実施後に、研修参加者に対してアンケートを実施し、研修の評価を行うとともに、成果と課題を次年度以降の研修の改善に生かす。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回全県指導主事等連絡協議会 (平成30年度英語教員指導力向上に係る取組の共通理解) 「中・高英語教育研究協議会」 	<ul style="list-style-type: none"> 民間業者による即興型 ディベート実践研修
5月	<ul style="list-style-type: none"> ◇イングリッシュキャンプ(～12月、計16回) 平成30年度「英検I B A」実施(中2、中3対象) 	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定協会
6月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回外国語活動・英語担当教員指導力向上研修会 ◇研修協力校における授業研究会(9校×2回)(～12月) 平成30年度「英検I B A」実施(高3対象) 	<ul style="list-style-type: none"> 秋田大学及び国際教養大学
7月	<ul style="list-style-type: none"> ◇スーパーイングリッシュキャンプ(～9月、計3回) 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> 小学校外国語教育集中実践セミナー(3日間) 小・中学校教育課程研究協議会(各管内ごとに開催) 高等学校教育課程研究協議会 第2回外国語活動・英語担当教員指導力向上研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 国際教養大学
9月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回英語担当指導主事連絡協議会 (平成30年度英語教員指導力向上に係る取組の中間評価) ◇リベラルアーツセミナー 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> 外国語指導助手指導力等向上研修会 学力・学習状況調査(高等学校) 	<ul style="list-style-type: none"> 県内大学等外部専門機関
11月	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度「英検I B A」実施(高1、高2対象) 第3回外国語活動・英語担当教員指導力向上研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定協会
12月	<ul style="list-style-type: none"> 県学習状況調査 第2回全県指導主事等連絡協議会 (平成30年度英語教員指導力向上に係る取組のまとめと次年度の方向性の確認) 	
1月		
2月	<ul style="list-style-type: none"> 秋田県教育研究発表会(研修協力校による実践発表) (平成30年度英語教員指導力向上に係る取組の総括と次年度の計画の具体化) 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> 「英検I B A」平成30年度結果の分析 	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定協会

【その他の取組】

